

## インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇してありました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。

2020 年第 4 週の定点当たり報告数は 18.00（患者報告数 89,436）となり、前週の定点当たり報告数 16.73 より増加した。

都道府県別では高知県（33.83）、宮崎県（30.56）、長崎県（28.59）、佐賀県（27.51）、大分県（26.59）、愛知県（25.14）、福井県（24.19）、鹿児島県（23.68）、愛媛県（23.54）、福岡県（23.53）、岡山県（22.64）、静岡県（22.27）、大阪府（21.12）、新潟県（20.82）、群馬県（19.87）、滋賀県（19.85）、千葉県（19.54）、三重県（19.21）の順となっている。33 都道府県で前週の定点当たり報告数より増加がみられ、14 県で前週の定点当たり報告数より減少がみられた。

都道府県別では高知県（26.58）、福井県（25.81）、長崎県（24.87）、愛知県（24.06）、福岡県（23.55）、宮崎県（23.39）、岡山県（22.61）、愛媛県（22.54）、大分県（22.52）、鹿児島県（22.13）、静岡県（21.43）、香川県（21.40）、沖縄県（21.03）、群馬県（20.87）、佐賀県（20.59）、滋賀県（19.83）、岐阜県（19.63）、千葉県（18.65）の順となっています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2019年第51週～2020年第3週）ではAH1pdm09（93%）、B型（5%）、AH3亜型（2%）の順となっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ  
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>)をご参照ください。

○2019-2020シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況（長崎県感染症情報センター報告より）：

2020年第4週（1/20-1/26）のインフルエンザ報告は、長崎市（28.35）、長崎県（28.59）で、第3週（1/13-1/19）長崎市（25.06）、長崎県（24.87）と比較すると、長崎市、長崎県ともに増加しました。いずれも流行レベルの指標1を超えておりました。50週以降の報告数が10以上（注意報レベルの流行）となっています。

長崎市は、40週、41週、42週と流行レベル（1以上）となりましたが、41週をピークに減少し、43週では1未満となりました。しかしながら、44週では、0.94と再度増加し、45週で1を超えました。

◎長崎県は、39週以降1未満となりましたが、長崎市が40-42週で1を超え、流行レベルとなりました。43週で1未満となりましたが、45週で1を超えました。さらに、50週以降で報告数が10以上（注意報レベルの流行）となりました。今後より注意が必要な状況になりました。

（長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変）

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。